
京大上海センターニュースレター

第 83 号 2005 年 11 月 15 日

京都大学経済学研究科上海センター

目次

○ 第5回京都大学ーソウル大学国際学術シンポジウムのご案内

○ 上海センター・ブラウンバッグランチ・セミナーのご案内

○ 上海センターの中国統計書の収集活動

+++++

第 5 回 京都大学ーソウル大学国際学術シンポジウムのご案内

京都大学経済学部・経済学研究科は韓国の慶北大学校経済学部およびソウル大学校の経済学部・経営大学（学部に対応）と交流協定をむすび、学生を相互に留学生として派遣し、教員が交互に訪問して共同シンポジウムを開催するなど、活発な交流を続けてきました。そのシンポジウムは慶北大学とはすでに 5 回、ソウル大学とも 4 回と回をかさね、時々の両国の経済や東アジアの経済の現状や問題点、最先端の学問領域、等について学術的な議論を重ねてきました。1997 年末のシンポジウムでは、おりから劇的に進行していた韓国金融危機の原因について、韓国の教授たちが熱を込めて論じていたことも思い出されます。今回は、京都大学上海センターの主催で、ソウル大学校経済学部・経営大学の先生方をお招きし、京都で次のようなシンポジウムを開催いたします。広く公開しておりますので、ふるってご参加ください。なお使用言語は、日本語、韓国語、英語で、韓国語については通訳をいたします。

メインテーマ「東アジア経済の発展と課題」

主催 京都大学経済学研究科上海センター

会場 芝蘭会館（〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮 11-1 電話 075-771-0958）

日時 12 月 14 日・15 日

プログラム

12 月 14 日（水曜）

セッションⅠ 10:00-12:30

「From Cherry Picking to Bottom Feeding- 日本における銀行問題の起源」

趙成旭副教授

「日本の銀行の構造改革」

吉田和男教授

セッションⅡ 14:00-16:30

「東アジア経済における為替レート変動と政策に関する再考察—過去から未来へ」

金載永副教授

「国際資本移動研究に関する新動向」

岩本武和教授

15 日 (木曜)

セッションⅢ. 10:00-12:30

「ランダム効用関数フレームワークにおけるパラメータ進化のモデル化」

金眞教助教授

「日本の携帯電話需要の離散選択モデル分析」

依田高典助教授

セッションⅣ. 14:00-16:30

「長期経済成長における制度と政策

——東アジアとラテンアメリカの比較」 李 根教授

「アジアとアフリカ経済発展の類型比較」 ジャン・クロード・マスワナ講師

レセプション 17:00 レストラン芝蘭

連絡先 京都大学経済学研究科 堀和生

電話 075-753-3438/FAX075-753-3499

+++++

上海センターブラウnbaggランチセミナー(第 10,11 回)のご案内

引き続き BBL を開催いたします。ふるってご参加ください。

第 10 回 「日中関係とナショナリズムーわれわれはなぜこれほどまでに嫌われるのか?ー」

講師 江田憲治 本学大学院人間・環境学研究科 教授

日時 11 月 17 日 (木) 12 時 15 分~13 時 45 分

場所 法経総合研究棟 1 階 102 演習室

第 11 回 「中国における契約と紛争解決」

講師 森川伸吾 本学法科大学院 教授

日時 12 月 21 日 (水) 12 時 15 分~13 時 45 分

場所 法経総合研究棟 1 階 103 演習室

+++++

上海センターの中国統計書の収集活動

京都大学経済学部は、戦前中国経済の研究を重点的におこない、膨大な資料を収集していました。ところが、戦後かなりの期間、本学部ではアジア研究に力を入れておらず、資料の収集もおおざりな状態になっていました。

いうまでもなく、現在の中国経済は世界全体に大きな影響を与えるようになっており、中国研究は社会科学全般の重要課題であることは誰もが認めるところです。2002 年設立した本学部上海センターでは、これらの課題に正面から取り組むべく、様々な研究プロジェクトを企画実施するとともに、国際シンポジウムを開催し、また国際学術研究ネットワークを構築してきています。そして、今ひとつの重要な事業として、現代中国経済研究の基礎資料となる統計書の収集に取り組んでいます。

収集の方針と範囲は以下のようです。

- ①1949 年以後の時期の統計書
- ②中央政府機関刊行の統計書
- ③中国全土を対象とした統計書
- ④省級地方政府の統計書

1970年代まで中国で刊行されていた統計書はわずかな種類でしたが、70年代末以降の改革開放時代になって状況は一変しました。その中でも、1980年代半ばと1990年代半ばに統計書創刊の大きなブームがあったようです。最近では毎年のように新しい統計書が出てきますが、それらをすべて収集することは不可能です。それで、本センターでは上記の方針にそって、収集対象を重要なものに限定し、むしろ欠落年度をなくするような集書活動をおこなっています。

現時点での所蔵点数は以下のようです。

1. 市・省・自治区統計年鑑	32種 434冊
2. 全国統計年鑑	29種 232冊
3. 全国年鑑	45種 462冊
4. 省市レベル分野別統計	8種 58冊
5. 市・省・自治区年鑑	17種 147冊
6. 統計資料、白書類	15種 36冊

合計	146種類 1,369冊
----	--------------

本センターでは、今後も引き続き統計類の収集を続けていく予定です。現時点においても、関西においては最大の中国統計書のコレクションであると自負しています。これらの統計書は、京都大学経済学部図書室において閲覧が可能なので、どうぞご活用ください。

(文責 堀和生)